

のに、と思う。ずっと思ってたなら、なんか…  
筆者：そういう痛さが心地よいついていうところは  
はある？ 眨めることで自分を安定させるみたい  
ないな。

ミュキ：でも、だから、援助交際するたびに  
安心するんですよね。なんか、うん。これで  
なんか、そういう風になっている自分がいて、  
なんかこういう私がいてという板挟みで、そ  
こから、だから、援助交際しているときは逃  
れられないんですよ。

(1998.9.28 収録)

お互い知らない者同士が金銭を媒介に行くという  
援助交際における性行為が「傷を傷で癒す」、「援  
助交際するたびに安心する」という一種の逆説が  
生じるの理由は、前回の論文でも論じたように、  
援助交際というコミュニケーションがもつ時空間  
の特性である、脱社会性にあると考えられる。と  
いうのも、脱社会的な時空間を特徴づける、匿名  
性や身体性が、トラウマを抱えた自己を社会的な  
存在であることから解放するのである。

もう一方の性的アイデンティティに関して言え  
ば、援助交際が他者の性的な何かを売買するとい  
うコミュニケーションであるために、直接に援助  
交際は援助交際を行う男女の性的アイデンティ  
ティに変化を及ぼさざるを得ない。たとえば後に  
みるように、援助交際女性が援助交際で行われる  
性的な行為に対して、積極的ではなく、当の行為  
の最中に意識を全くもたないか、あるいは意識を  
何か別のところに向けている状態、俗に言う「マ  
グロ状態」であるとしても、性的な行為を行った  
という事実とその内容に関する情報は当人に残っ  
てしまう。例えば、「私はマグロだった。でもオヤ  
ジは一生懸命に私をイカセようとしていた」とい  
う援助交際に関する感慨は、直接に私の性的価値  
はたとえマグロ状態であっても、性的行為の対象  
としては十分なものだという認識に至る。ここで  
主張したいのは、たとえどんな援助交際であって  
も、援助交際を行う男女兩人にとっての性的アイ  
デンティティに変化を及ぼさないような援助交際  
はあり得ないということである。このことをふま  
えた上で、援助交際において積極的に性的アイデ  
ンティティの変化を求めるタイプの女性を魅力確

認系と呼ぶ。このタイプの女性は、男性にとって性的  
な存在であること、つまり「女」として扱われ  
ることを期待している。援助交際相手の男性か  
ら、直接的に身体を求められるというコミュニ  
ケーションに身を置くことは、女性の性的アイデ  
ンティティの肯定感を高める。特に普段の日常生  
活において男性から性的に求められないことが多  
い女性は、援助交際で性的に求められることで自  
らの性的アイデンティティを確認できる。

また援助交際は、女性にとって自己の性的な価  
値を、お金という目に見える、他のほとんどあら  
ゆるモノに交換可能な究極の媒体に置換する。た  
とえば「自分がどこまで高く売れるか」と試すた  
めに援助交際を始めた23歳の女性の事例を見てみ  
よう。

<データ3>

筆者：援助交際のきっかけは？

マキ：お金に困っているわけじゃない。自分  
の値打ちがいくらぐらいになるのかなあと  
思って始めた。

(1997.10.15 収録)

魅力確認系とは、男性からの性的な魅力認知が  
低いために自己評価も低くなり、低い自己評価を  
補うために援助交際を行うタイプの女性である。  
自己評価の程度を知るために、インタビューで  
は、彼女たちに「今の自分が好きか、嫌いか？」  
という質問を行っている。従って、このタイプの  
女性には、容姿に恵まれなかったり、比較的年齢  
が高いために男性からの性的承認が不足している  
女性たちが多いと言える。このカテゴリーには8  
人の女性が分類される。しかしこのことも絶対と  
いうわけではなく、男性からの性的承認が外見的  
には十分にあるだろうと考えられる女性もいる。そ  
ういう女性は実は、家族関係に問題があって全体  
的に自己肯定感が得られないために、自己の性的  
評価も低くなっていると考えられる。従ってこの  
ケースの女性たちは、AC系に分類される。

では、この魅力確認系の事例をインタビューに  
沿って見てみよう。チエはインタビュー時に、28  
歳の女性であった。彼女は幼少期に実の母親と死  
別し、その後義理の母親と実父との家族関係がう